

みんな、早く読んで!

『みんな、好きが下手』を読んで、 思わず語りたくなっちゃった アラサー社員有志による座談会

A プロモーション部 (27歳女性) / B 営業部 (30歳男性) / C 編集部 (29歳女性) /

D 営業部 (27歳男性) / E 営業部 (30歳女性)

- A** ねえ、めちやくちや面白かったんだけど！でも那月のことが全然理解できなかった。なんでジン太はあんなに怒られたの？ そんなに悪いことしてたっけ？
- B** 那月はさあ、ジン太に自分の気持ちを想像して欲しかったんだよ。相手のことを全部理解するのって難しいけど、寄り添う姿勢を見せることで安心するってことあるじゃん。俺は経験上、ジン太のことも那月のこともめちやくちや分かるよ。
- C** いやいや二人ともちょっと待って、もう始まってます？ 今日小林早代子さんの新刊『みんな、好きが下手』の魅力を伝えるための座談会ですよ。
- B** あ、先走ってすみません。読み終えた時の興奮のままに話し始めちゃってました。
- D** Bさん、ゲラにめっちゃドッグイヤー入ってますね。それだけおもしろかったってことですか？
- B** ファミレスで友達の恋バナを聞いているみたいな等身大の共感だらけで、僕にはめっちゃくちゃ刺さったんですけど、この小説を読んで「分からなかった」っていう人も少なからずいて。感想を伝え合う中で、それぞれの考え方や
- 立場の違いが明らかになる、みたいな現象も面白いと思ってるんですよ。
- A** 確かに。恋愛リアリティショーを見た後に「ねえみんなどう思った？ 私はこう思ったんだけど」って周りに感想を聞きたくなる感じに似てるかも。読んだ人によって「分かる／分からない」のポイントが違ったり、それを話し合う中で新たな視点が自分の中に生まれたり。話し合うことでより理解が深まる感じ、作品を味わい尽くしてる！ って感じがして楽しいですよ。
- C** この小説を読んで「共感できた」っていう方、Bさんの他に誰かいますか？
- D** 僕は共感できました。でも、登場人物の誰かに共感したというよりは、小説で描かれている空気感に対して「うわく分かる！」ってなりました。主人公のジン太が高校時代の彼女の美浦に会うために北海道に行くエピソードがありますよね。性格や関係性自体は変わっていないのに、久しぶりに会った相手が全然知らないカルチャーの中で生活しているところを目の当たりにして、自分が急に置いてきぼりを喰らっていったような気持ちになったり、自分の人生がしようもなく見えたりするという感覚はなんか

身に覚えがあるような気がして。

E 確かに。私もとにかく「大学生」の描き方がうまいなあと思いました。ジン太は大学一年生なんですけど、その頃って「あいつはこういうタイプだから」って、相手を何かしらの枠に当てはめてコミュニケーションを取りがちだった気がします。自分に対しても「私はこういうタイプだと思われているから、こんな立ち振る舞いが求められている」って意識して行動しちゃったり。

B MBTIとかラブレタイプ診断のノリも近いところありますけど、相手とコミュニケーションを取って引き出した情報より、「こういうタイプ」っていう前提をもとにした関係性もたらず空気感、なんか現代的っていうか「あるある」って思いました。

A この小説ならではの魅力の一つに「新しさ」もあると感じました。私が今まで読んできた小説って、だいたい心に闇を抱えた人物に焦点を当ててるんです。でも、この小説は普通の大学生であるジン太が主人公なんです。だからってドラマがないわけじゃなくて、普通の大学生にも悩みや壁があるということが描かれてますよね。

D ジン太って本当にめっちゃくちゃ普通の大学一年生ですよ。実家住まいで塾講師のアルバイトしててESSサークルに入ってるって高校時代に付き合ってた彼女と遠距離恋愛中。僕が学生時代、あえて視界に入れないようにしてきた人種です……。

一同 (爆笑)

E ジン太は家族からも愛されて育って場の空気を読むタイプなのに、「肝心なことが言えない」って、どこか捻けているところは、思春期を卒業できてない十代後半の普遍的な性質なのかなって感じました。

C SNSの使い方もめっちゃ普通で、それがまたリアルなんです。社会人になって数年経つ私の周りでは、最近、SNS断ちする人も出てきたんですけど、学生にとってのSNSって日常的なコミュニケーションツールですよ。

B 遠距離恋愛中の彼女のLINEのアイコンが、一緒に行ったデイズニーの写真から変わってないから、きつと気持ちも変わってないはずだ！ ってジン太が自分に言い聞かせてるのもリアルだった……。

A 小説の中にSNSが出てくると「SNSを

手放そう！ こういうものに頼るのはやめよう！」っていう展開になることが多いけど、この小説はそうじゃないですよ。SNSを肯定的に捉えているのも、新鮮さを感じた理由かも。**C** SNSでしか吐き出せないことがあって、それも含めて自分なんだっていう感覚は私にも分かります。

B あと、小林早代子さんならではのパンチラインや表現の巧みさも小説の魅力ですよ。『アイドルだった君へ』や『たぶん私たち一生最強』でも、読む人の心をえぐる表現が「めっちゃくちゃ刺さる！」って話題になったし。

A 「普通だろ、俺は」とか「血が通った最悪のChatGPT」とか「いいね！のハートを集めて花束にしてこの得難い瞬間を実感したい」とか……秀逸な表現がたくさんあるのに、読んだ人じゃないとこの興奮が共有できないのがもどかしい！

B プルーフを読んで「つい語りたくなっちゃった」という方は、ぜひ、新潮社まで熱い感想をお待ちしております！

小林早代子『みんな、好きが下手』 5月20日発売

予価 一六〇〇円(税別) 四六版ソフトカバー

予頁 二六頁・4-10-351763-4